

SFC 研究所ラボラトリ年次活動実績報告書

ラボ名称	データビジネス創造・ラボ					
ラボ代表者	氏名	村井 純	所属	慶應義塾大学		
ラボ設置期間	2013年6月1日		～	2022年3月31日	8	年間

構成メンバー（提出時点）		
氏名	所属・職位	役割
村井 純	教授	代表 コンピュータコミュニケーション、オペレーティングシステム
國領 二郎	総合政策学部教授	経営情報システム
南 美穂子	理工学部数理科学科教授	統計科学
中村 修	環境情報学部教授	超高層ネットワーク、W3C
武田 圭史	環境情報学部教授	情報セキュリティー
古谷 知之	総合政策学部教授	統計学、観光政策、交通政策
中澤 仁	環境情報学部教授	分散システム、ミドルウェア、ユビキタスコンピューティング
植原 啓介	環境情報学部准教授	コンピュータネットワーク
伊達 仁人	政策・メディア研究科特任准教授	データ解析
鈴木 由紀	臨時職員	事務員

年次活動実績報告

研究活動報告 (設置申請書, 継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。)

主として、データビジネス創造コンソーシアムの事務局として活動した。

○データビジネス創造コンテストの実施

<第11回データビジネス創造コンテスト>

株式会社講談社をビジネスパートナーとして、第11回データビジネス創造コンテストを実施した。第11回データビジネス創造コンテストは、「創り手と読者をつなぐコミック出版戦略～売上データから見る新しい視点のマーケティング提案～」をテーマとしてメディアミックスに成功したコミック作品について売上推移データ等を多角的に分析し、読者と創り手をマッチングする新しい視点でのマーケティング戦略の提案を募集した。コンテストには71チームのエントリー、45チームの予選資料提出、10チームの本選参加（うち1チームが高校生）があった。最優秀賞は「電子書籍の概念を破壊！？三次元と二次元を結ぶ荒唐無稽な読書体験」と題したプレゼンテーションを行った慶應義塾大学大学院の新井崇弘さんであった。

参考: <http://dmc-lab.sfc.keio.ac.jp/dig11/>

<第12回データビジネス創造コンテスト>

株式会社ぐるなびをビジネスパートナーとして、第12回データビジネス創造コンテストを実施した。第12回データビジネス創造コンテストは、「～食は笑顔を作る～飲食文化の新しいカタチ～」をテーマとして飲食店情報サイト「ぐるなび」の閲覧・予約データや独自に収集したデータを多角的に分析し、飲食業に新しい価値を提供するような提案を募集した。コンテストには80チームのエントリー、50チームの予選資料提出、10チームの本選参加（うち4チームが高校生）があった。最優秀賞は「SAKABA 5.0」と題したプレゼンテーションを行った筑波大学大学院のチーム「TS」であった。

参考: <http://dmc-lab.sfc.keio.ac.jp/dig12/>

○勉強会の実施

慶應義塾内外の高校生、大学生、大学院生およびコンソーシアム参加者にむけた勉強会を3回開催した。

第20回勉強会を7月10日にオンラインで実施した。勉強会では、「規制産業におけるDX推進と、データサイエンティストのキャリア2020年Ver」と題して株式会社GA technologiesの橋本武彦氏に講演をお願いした。

第21回勉強会を11月6日にオンラインで実施した。勉強会では「ぐるなびの飲食店支援の取り組みとWithコロナの飲食店支援について」と題して、株式会社ぐるなびの工藤雄太氏、伊東翔磨氏の2名に講演をお願いした。

第22回勉強会を1月8日にオンラインで実施した。勉強会では、「EdTechで広がるデータ利活用」と題して株式会社ベネッセコーポレーションの國吉啓介氏に講演をお願いした。

○Slackワークスペースの設置

生徒・学生、教員、企業間でのコミュニティの形成の一環として、データサイエンス分野のコミュニティ構築の必要性を検討し、新型コロナウイルスの影響で直接交流できる場の提供が難しい現状を鑑み、2021年3月にSlackワークスペースを利用したコミュニティを設置した。3/31時点の参加者は54名。

研究成果（学術論文、著作物、メディア露出等）

特になし